

# 総合的な学習の時間 学習指導案

平成 年 月 日( )第 校時

小学校

年 組 名

授業者

## 1. 単元名 ソンバーくんの誕生日～みんな同じ地球市民！～

教材名 「ソンバーくんの誕生日」小学生版

## 2. 単元の目標

- ひとりの少年の体験を通して、カンボジアの内戦を描いた物語「ソンバーくんの誕生日」を読んで、内戦や紛争がその国の人々に与える影響について考えることができる。
- NPO 法人「豊かな大地」や他のカンボジアで活動する NPO,NGO で働く人に、自分たちが疑問に思った点について質問することができる。
- 現在のカンボジアと日本に住むわたくしたちの暮らしの違いや共通点、カンボジアと日本の接点を探し、多様な表現方法を児童が自ら選択し、主体的にまとめることができる。
- カンボジアについて学んだことを、自己の生き方とつなげ、家族や地域の人々に伝えようとすることができる。

## 3. 本教材・学習材の意義

カンボジアは、わたくしたちの住むアジア地域でも凄惨な内戦が行われた国である。またそのために世界有数の地雷汚染国となり、現在も人々の命が危険にさらされている。

カンボジアと日本、極めて異なる環境に暮らすわたくしたちがお互いに共通点や異なる点を見つけ、文化や生活環境の違いを認識することは、「同じ地球に暮らす市民である」という自覚を持ち、助け合って生きていくことの重要性を考えさせてくれる。

また、「貧困国」と呼ばれるカンボジアに暮らす人々の笑顔は「本当の豊かさ」「本当の幸福」とは何か、わたくしたちに問いかけてくる。

本教材は、未曾有の大災害に見舞われ、社会のありかたの転換を迫られる日本に生きる子どもたちにとって有効な教材・学習材になると考える。

### 【補助教材】

- ・カンボジアの生活と、内戦の傷跡の写真集、カンボジアの子どもたちが描いた絵
- ・白地図(世界地図)
- ・絵本「ソンバーくんの誕生日」

#### 4. 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1 時 間 目	<p>1.カンボジアを知る: 出会いの時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソンバーくんの誕生日」読本。</li> <li>・物語を通じて、内戦・紛争が人々にもたらす影響について考える。</li> <li>・物語の中で、気になった言葉や疑問に思った事柄を書き留める。</li> <li>・カンボジアの子どもたちが描いた絵を見て、自分たちの生活と異なっているところ、同じところを見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせまたは読本</li> <li>・ワークシートを準備する。</li> <li>・カンボジアの子どもたちが描いた絵を児童に提示する。</li> </ul>
2 時 間 目	<p>2.調べ学習をしてみよう①: 気づきの時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き出した言葉や疑問に思った事柄について、インターネット等を利用して調べる。</li> <li>・さらに疑問に思ったことや分からないことを書き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で使用したワークシートをもとに、調べたい事柄を選択させるようにする。</li> <li>・調べてわかったこととわからないことを区別して書かせる。</li> </ul>
3 時 間 目	<p>3.調べ学習をしてみよう②: 情報収集能力、コミュニケーション能力を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアで活動している方に、わたしたちの知らないカンボジアについて話を聞く。</li> <li>・自分たちで調べたことや話を聞いたことに関する疑問を質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアで活動している NPO や NGO の職員が講師を務める。</li> <li>・分からないことは質問できるような時間を設定する。</li> <li>・外部講師を招聘することが難しい場合、質問事項をまとめて、メール・手紙・電話・訪問などを行い、疑問を解決できるようにする。</li> </ul>
4 時 間 目	<p>4.理解を深める: 思考力を育てる、学習の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習の結果を踏まえて、自分たちに何が出るかをクラスで話し合う。 (予想される内容)</li> <li>寄付・募金活動 カンボジアについて学んだことを伝えるための表現方法(詩・絵画・ポスター・劇等)</li> <li>・カンボジア以外にも、内戦や紛争をしている国を調べ、世界地図に書き込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識や目的意識をもって多様な表現方法から児童が選択できるようにする。</li> <li>・世界地図の白地図を配布する。</li> </ul>

5 時 間 目 + 時 間 外	5.発表・実行： コミュニケーション能力を育てる ・各クラスで話し合ったことをもとに、 実行するための計画を立てる。 ・それぞれが選んだ形式で発表を行う。	・これまでの学習の過程を記録しておき、ポートフォリオなどにまとめさせておく。 ・年度末、発表会や文化祭などの展示で、保護者・地域の人々へ伝えられるようにする。
--------------------------------------	---	--

## 5. 発表について

発表の形式は以下のようなものが考えられる。

- ・寄付・募金活動(社会科分野)
- ・絵画・壁画・ポスターなど(図工分野)
- ・詩(国語分野)
- ・創作叙事詩(国語分野)
- ・歌、作曲(音楽分野)
- ・ポートフォリオ(国語分野)

それぞれの行動・作品に対して「なぜこの行動・作品を作ったか」というコメント(解題)を必ずつけるようにする。このことが、生徒が抱いた問題意識を明確にし、「今、自分たちに出来ることは何か」「これから自分たちに出来ることは何か」という課題を持つことに繋がる。

発表の形式は児童の自由とするが、学校のホームページなどを通じてより広く発表できるよう配慮する。絵画などは写真を撮るなどして蓄積し、ホームページ上で閲覧できるようにする。それらの蓄積は次回以降の国際理解教育に有効な資料となる。

また募金活動などは継続して行うことが大切である。「学校の良い伝統」として残せるよう、募金の方法から募金先選定、情報公開まで6年生がリードして行い、次学年が6年生になった時に引き継ぐことが出来るよう援助する。

## 6. 評価

学習活動	具体的な評価
1.カンボジアを知る: 出会いの時間	・同じ地球には、毎日を安全に暮らせない人々がいることに気づくことができたか ・カンボジアと日本の相違点と類似点に気づくことができたか
2.調べ学習をしてみよう①: 気づきの時間	・インターネット等を利用して情報収集をすることができたか。 ・自分が「分かったこと」「分からないこと」がはっきりと理解できたか
3.調べ学習をしてみよう② 情報収集能力、コミュニケーション能力を育てる	・「分からないこと」を明確に持って外部講師との授業に臨めたか ・カンボジアについて学んだことを元に、自分なりの「カンボジア像」を持つことができたか
4.理解を深める	・自分たちの生きている社会・生き方と、カンボジアやその他の戦争・紛争地域について学んだことが、同じ世界

	で起こっていることだと理解できたか
5.発表・実行	・これまで学んだことについて、自ら選んだ表現方法で、他の人に伝えることができたか

### 【おすびにかえて～NPOからのメッセージ～】

本教材は、海外で活動するNPOが持つ活動地に関する知識を次代を担う子どもたちへ伝え、新たな社会の構築の一助となることを目的としています。

海外で活動するNPOは、旅行ガイドブックでは知り得ない活動地の生の情報や、そこで暮らす人々の表情を知っています。それらを知ることで、自分たちの暮らす日本という社会が見えてくるのです。その上で、異なる環境・価値観、また人種や言葉を超えて「共に生きる社会づくり」を、日本だけでなくグローバルな視点から考えることができる「人づくり」に貢献することはNPOの活動の一環でもあり、責務でもあるのです。

この教材では「最貧国」と言われ、アジアでも最も凄惨な内戦が行われた国のひとつであるカンボジアを扱っています。カンボジア内戦の和平には日本も重大な役割を果たし、また現在もアジアの隣人として多くのNGO/NPOが活動しています。当団体「豊かな大地」のみならず、生徒たちの疑問によっては他のNGO/NPOの支援も必要になるかと思えます。その際には適したNGO/NPOを探しやすく、学習に適した国であると言えるでしょう。

活動地域の国の関係機関・村の人々・NPOはそれぞれ役割を持ちながら、お互いに話し合い協力し合って活動を行っています。そういった現在の姿を見ながら、互いを尊重し、「共に生きる」ことの大切さを学んでほしいと考えます。

この学習に際して先生方には、生徒自身が自発的・自立的に学習を行うための活動の促進・支援を行って頂ければ幸いです。